

第二章 原始時代



第1図：小四王原復元住居

日本列島に人が住んだのはいつからか。どんなところに住み、何を食べ、どんな道具を使って暮したのであるか。使った道具はどんな風に進歩したのか。置賜盆地には、どこにその遺跡があり、遺物はどんなものがあるのか。白鷹町の遺跡、遺物はどのようになっているか。

現在の人々の住み易い環境を作ることのために、遺跡はどんどん壊され、その遺物は遠慮なく失われて行く。文化財保護委員会では全国的な遺跡台帳作成の計画を立て、各都道府県毎に昭和三十六年一斉調査が実施された。その結果、「山形県遺跡地名表」〔埋蔵文化財〔包蔵地一覽〕〕が作成され、県内埋蔵文化財の保護資料として発行された。この一斉調査にもれたもの、その後発見されたものなどもあり、これからも数多く発見される可能性はある。遺跡は一度発掘されるか又は壊された場合、完全復元は不可能である。発見された時点でそれを記録し、可能なものは保存しなければならない。白鷹町における「原始時代」の研究は、進んでいるとはいえないし、遺跡、遺物の記録、保存も良好とはいえない。原始時代の時代区分は、いろいろな説が

あるが一般的にわかり易い方をとることにした。第1表は町内の主な遺跡の時代区分を示したものである。

000		5,000	6,000	7,000	8,000年	3万年	10万年	時代 区分						
文化					無土器文化				・東北地方南部で 使用された土器 型式名 ・無土器時代の遺 跡名					
早期 (早創期)								白鷹町の 主な遺跡						
船入島下層式		梨木畑式	上川名I式	素山IIb式	素山IIa式	槻木I式	大寺123式		明神裏III式	大平式	蛇王堂式	(山形)一ノ沢I式 (山形)一ノ沢II式	(山形)越中山遺跡 (山形)鳥谷沢遺跡	(山形)上屋地遺跡 (山形)横道遺跡 (山形)小国 (山形)平林遺跡
↓		↓		↓	↓	↓	↓	↓	六、〇〇〇年前	八、〇〇〇年前 (8410±350)年前	九、〇〇〇年前 約(9500)年前	一〇、〇〇〇年前	五〇、〇〇〇年前	

